

もも栽培情報 第2号

令和6年3月18日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「あかつき」の開花始め（2～3割開花した日）を4月7～8日（R5：3月30日、R4：4月9日、R3：3月30日、平年値4月10日）と予測しています（3/15現在）。開花は、今後の気温に大きく左右されるので、現時点の予測より早まわることも想定し、作業を進めてください。

2 病虫害防除

- 下表を参考に防除を実施してください。なお、今後の気温等により開花時期が変わる可能性もあるので、散布時期は生育に合わせて調整してください。

(結実樹) (散布量:2回目:300ℓ/10a、3回目以降:350ℓ/10a)

回	時期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
2 (せん孔細菌病の 重点防除)	4月上旬 (開花直前)	せん孔細菌病	ICボルドー412※	50倍	2 ℓ
3	4月中旬 (落花後、川中島白 桃受粉後)	せん孔細菌病 (展着剤)	アグリマイシン-100 マイリノー	1,500倍 20,000倍	66 ml 5 cc
特散 (コスカシバの発生が 見られる場合)	4月中旬 ～下旬	コスカシバ (日焼け防止)	ガットサイドS	1.5倍	樹幹、主枝 に塗布
4	4月下旬	せん孔細菌病 (展着剤)	スターナ水和剤 マイリノー	1,000倍 20,000倍	100 g 5 cc

(未結実樹) (散布量:5ℓ以上/樹)

回	時期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100ℓ当たり 必要薬剤量
2 (せん孔細菌病の 重点防除)	4月上旬	せん孔細菌病	ICボルドー412※	50倍	2 ℓ
3	4月中旬 (落花後、川中島白 桃受粉後)	せん孔細菌病 (展着剤)	アグリマイシン-100 マイリノー	1,500倍 20,000倍	66 ml 5 cc

※ 開花後のICボルドーの散布は、受粉への影響が懸念されるので、遅れないように散布する。

(性フェロモン剤「コンフューザーMM」の設置)

「コンフューザーMM」を設置する場合は、下記の事項を参考に実施してください

- 設置本数：100本/10a
- 設置時期：4月下旬～5月上旬
- 適用害虫：ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモハモグリガ、リンゴコカクモンハマキ
- 注意点：①目の高さに設置する。
②ほ場の外周は多めに設置する。
③なるべく葉などにかくれ、直射日光に当たらない場所に設置する。

3 今後の管理

(1) 新梢の管理 (幼木、若木)

- ・主枝先端部分の新芽はできる範囲で下芽を残し、背中(×印)の芽はかき取る。下芽がない場合は、背中の中の新芽は残す(写真1)。
- ・主枝先端から50cmまでの花芽はすべて摘蕾する。開花、着果すると新梢生育が悪くなる。



写真1 新梢の管理

除去しない。

(2) 新芽の管理 (幼木、若木)

- ・主枝候補枝の基部や太い側枝の背中から出ている新芽は、太い新梢になり、主枝候補枝の先端を弱らせるおそれがあるので除去する。早い時期なら指で押すだけでとれる(写真2)。

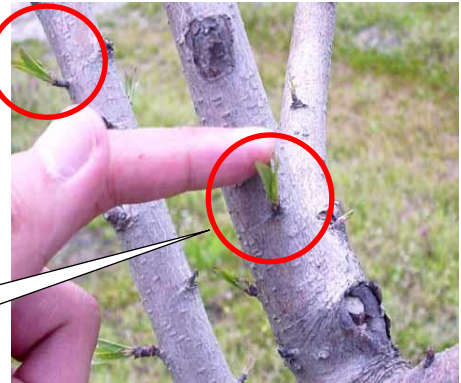


写真2 新芽の管理

基部に近い部分から出た新芽はかき取る。

(3) せん孔細菌病対策 (春型病斑の摘除)

- ・発芽せずに枯れている枝(写真3)では、せん孔細菌病の病原細菌が皮部組織内で越冬している可能性があります。
- ・作業中に見つけた場合は、すぐに切除し、ほ場外に持ち出し処分しましょう。



写真3 せん孔細菌病の春型病斑
(紫褐色～紫黒色で円形～長円形の
光沢のある病斑)

(4) 摘蕾

- ・実施していない場合は、開花前までに行いましょう(詳細は第1号参照)。

4 人工受粉

- ・花粉が多く完全な花粉が形成される品種(「あかつき」、「なつっこ」等)は、訪花昆虫や風などにより容易に受粉・結実しますが、花粉がない品種(「川中島白桃」等)は結実が難しいため、人工受粉を行う必要があります。
- ・梵天や毛ばたき等を利用し、花粉のある品種(「あかつき」、「よしひめ」、「まさひめ」等)の花をなぞった後、花粉のない品種の花をなぞって受粉させます。
- ・人工受粉は、開花率50%の頃と80%の頃の最低2回、花が乾いている状態で行いましょう。

農薬散布にあたっては、周辺の他の作物や民家に薬剤が飛散しないように十分注意しましょう。